

本人部会活動報告

ラポール古庄

矢部初江

今年度の本人部会は、委員が全員入れ替わり、手探りの状態でした。事務局の遠藤様にも助言をいただき、リモート会議を行いながら話し合いを重ねてきました。お互いの事業所の取り組みや悩み、利用者さんとの向き合い方等々：会議の回数を重ねていくことで、支援者、当事者との共に働く上での問題が提議されました。その結果分科会のテーマは『作業所の日常 自分たちの目線からもう一度考えてみよう』と結論ができました。

昨年の分科会では事前に撮影した映像を見てもらうことでの発表でした。今回も撮影にしようと思いましたが、その場で発表してくれる利用者さんがいるのならば、意見を言える場を確保し、その経験を積み重ねていくことが本来の本人部会だろうと意見がまとまり、今回ゆうゆう舎から3名、ウイン作業所から1名の当事者発表が決まりました。

まず、ゆうゆう舎からは「コロナ禍での在宅支援の経験や過ごし方」「事業所内の中で感じたこと」「自立生活について」の発表をしていただきました。最初は何をして良いかわからず戸惑ってしまっていたことから違和感を抱き慣れていく中での思いや、コロナがいつ終わるのかと思う中、パソコンのスキルアップの動画鑑賞や色々なセミナーにズームで参加した生活。情報がない不安感からの職員に対する意見。自立生活を始めてヘルパーと関わり合いながら感じたこと。

また、ウイン作業所からは「私の楽しみとお金の使い方」の発表をしていただきました。事業所内の様々な作業の取り組み。自分が手掛けた商品に声をかけて買ってくれたことへの嬉しさや、相談支

援の方の出会いを通じて充実して過ごしていること。

今回の分科会で様々な発表を聴き、意思決定支援として大事なことは共に考えるということが大切だと感じました。当事者の方の声を聴きながら、そして自分たちの自己を見つめながら行っていくことが私たちの仕事だと思いますし、当事者の声を聴かなければわからないこともたくさんあります。「こうあるべき」など、決めるのではなく常に耳を傾けながら、両方の目線で考えていきたいと思えます。

分科会で発表してくださった繁田様、宮様、牧野様、小野田様、このような機会をいただきありがとうございました。

